

令和3年5月

中学校卓球部顧問・指導者の皆様へ

中学卓球部に所属する生徒の保護者の皆様へ

東京都立野津田高等学校

平 雅 行

ご挨拶

新緑の候、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。この度、4月1日付を以て東京都立野津田高等学校に着任した平雅行です。

先生方におかれましては、前々任校の私立中学・高等学校在職中から大変お世話になっており感謝しております。ご存じの先生方も多いことかと思いますが、私は19年間、私立中学・高等学校に勤めていました。しかし今から5年前、42歳のときに「私の教員人生はこのままで良いのか?」「自分が育った都立高校で教えたいのではないか?」と強く思いました。「人間青山（じんかんせいざん）」という私の好きな言葉がありますが、これは「人間到る処に青山あり」を略した言葉で、幕末の僧である月性の言葉です。意味は、「世の中は広く、死んで骨を埋める場所ぐらいどこにでもあるのだから、大望を成し遂げるためにならどこにでも行って、大いに活躍するべきである」です。そして、やはり夢を捨てきれず「人間青山」の言葉のように、平成28年に東京都公立学校教員採用候補者選考に挑戦しました。その「強い思い」が何とか通じて無事に採用され、平成29年4月から令和3年3月までの4年間、東京都立小川高等学校に勤務しておりました。その間の平成30年4月から2年間、東京高体連卓球男子専門部の副委員長を務め、昨年4月に東京高体連卓球男子専門部の委員長に就任しました。今後とも、敢為邁往の精神で挑み続けていきます。ホームページには私が委員長になって初めて実施したTokyo Thanks Match（代替大会・昨年8月実施）の様子（卓球王国2020年11月号掲載、ニッタクニュース令和3年号外掲載）も掲載しましたので、お時間がありましたらご覧ください。

さて、先生方の学校の卓球部員で高校進学後に都立高校で卓球を続けたいという生徒がいましたら、都立野津田高校普通科も選択肢のひとつとして薦めていただければと思います。私が高校生の頃は野津田高校にも卓球部があり強い選手もおりましたが、現在は卓球同好会という名前で存在しております。生徒と一緒にまた一から挑戦していきます。保護者の皆様も是非、都立野津田高校普通科も選択肢のひとつとして考えていただければと思います。今現在の卓球同好会のメンバーは2年生男子2名・1年生男子2名・女子3名、合計7名と少しずつ増えてきました。

私の卓球部顧問・監督としての指導実績は多くはありませんが、私立中学・高等学校在職中は高体連主催大会の東京都予選で学校対抗の部ベスト16進出14回、ダブルスベスト16進出3回、シングルスベスト16進出1回、ベスト32進出5回、東京選手権ジュニアの部東京都代表2回など少しずつですが勝てるようになってきました。また、高校から卓球を始めた部員がレギュラーになったり、個人戦で5回戦に進出するなど生徒のがんばりに助けられました。小川高校在職中は学校対抗の部ベスト32（4回戦）進出が3回、シングルスベスト64（7回戦進出）が1回など主だった実績を残すことはできませんでしたが、コロナ禍の前は東京都の学校だけではなく、埼玉県や茨城県、神奈川県和学校とも練習試合を行えるようになってきました。そして、私自身も今後の卓球指導のことを考えて、令和元年に日本スポーツ協会公認、卓球コーチ3養成講習会を受講して共通科目を修了しました。専門科目（卓球）は今後取得していきます。

これからも卓球の灯を守り続け、ますます発展するよう研鑽を積み重ねていく所存ですので何卒以前と同様にご指導ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。